

首里城復元に向けた技術検討委員会
第2回報告会 2023.03.23.
首里城正殿 平成と令和の復元の違い

フランス海軍撮影首里城正殿写真の令和復元への寄与
委員 伊從 勉



フランス海軍撮影首里城正殿写真 (Hervé Bernard 所蔵)
Temple dans la cour du palais de l'Osama
1877.05.16.10:00am-14:00pm撮影

□目次

はじめに: 1877年正殿写真の背景

フランス海軍極東艦隊の行動履歴の中のラクロシュトリー号来沖の意味 [伊從2022a]

- (1) J. ルヴェルテガ「1877年の琉球列島訪問記」(1882)が触れていない任務と目的
- (2) ラクロシュトリー号艦長リウニエ航海日誌の公開と1877年撮影の写真の登場 [Bernard 2010]
- (3) 航海日誌にも不明な来沖の目的: 日本近海航海日誌抄録 [Bernard 2011] があきらかにした黄海・日本海でのラ号の行動軌跡 [伊從2022a: 解題]
- (4) リウニエ艦長(フランス海軍極東艦隊司令官)の日本再訪(1885~87年)記録 [Bernard 2011] があきらかにした1875~78年のラクロシュトリー号来沖の意味 [伊從2022a: 解題]

1 写真撮影の状況

- (1) 仏人登城日: 2日、4月3日(太陽暦5月15日)艦長を含む仏人7人と内務省係官3人、4月4日(同16日)仏人6人(艦長は参加しなかった)と内務省係官3人 [『御書院日記』尚家文書1877年]
- (2) 撮影日: 陰暦4月4日(太陽暦5月16日) [Bernard, H. 2011:] 10時から14時、当日の天気: 曇天 [御書院日記による]。曇天のため、正殿の陰翳が浅く、細部が観察できる [『御書院日記』尚家文書1877年] [伊從翻訳2022a: 59]。
- (3) 撮影人員: J. Revertégat とその助手の2名、正殿写真に4名の下士官が唐玻豊階段付近に写っている。撮影日と撮影状況は、Revertégatの旅行記やBernard翻刻航海日記抄録[2010]は触れていない

[Bernard, H.2011][伊従翻訳2022a:61]。また、『御書院日記』は、二日目の来訪時に写真の撮影があったことに触れていない。

(4)撮影位置:番所前の御庭[図1フランス海軍写真撮影位置]

(5)写真から合成できる図面:御庭平面図正殿と西之廊下立面図[図2]

2 写真がもたらした新事実

(1)龍柱上半身正面が御庭を向いていること。下半身正面(腹板)は各々南と北を向く[図3]。

(2)損傷した龍柱の損傷箇所と龍文様の詳細が明らかになった[図4 阿形龍柱]・[図5 吽形龍柱]

(3)唐玻豊各部分の装飾文様の実態が判明した:『寸法記』(1768)・御普請絵図帳(1846)の唐玻豊絵図は概略図と判明[図6]。

(3-1)正殿二階国王出御座下羽目板(霧除け位置)絵図の牡丹獅子唐草文様の詳細[図6-1]

(3-2)同上羽目板南北の獅子絵図の詳細[図6-2]

(3-3)唐玻豊透欄間透彫の牡丹獅子唐草文様が前項(3-1)と同じ文様であること[図6-3]

(3-4)唐玻豊妻壁の浮彫装飾[昭和修理図面との対応][図6-4]

(4)正殿二階の画簾は常時架かっていたこと[図7]

(5)正殿北側西之廊下が北殿と接続していたこと[図2]

(6)西之廊下と南之廊下の窓の高さが二種類であったこと[図8]

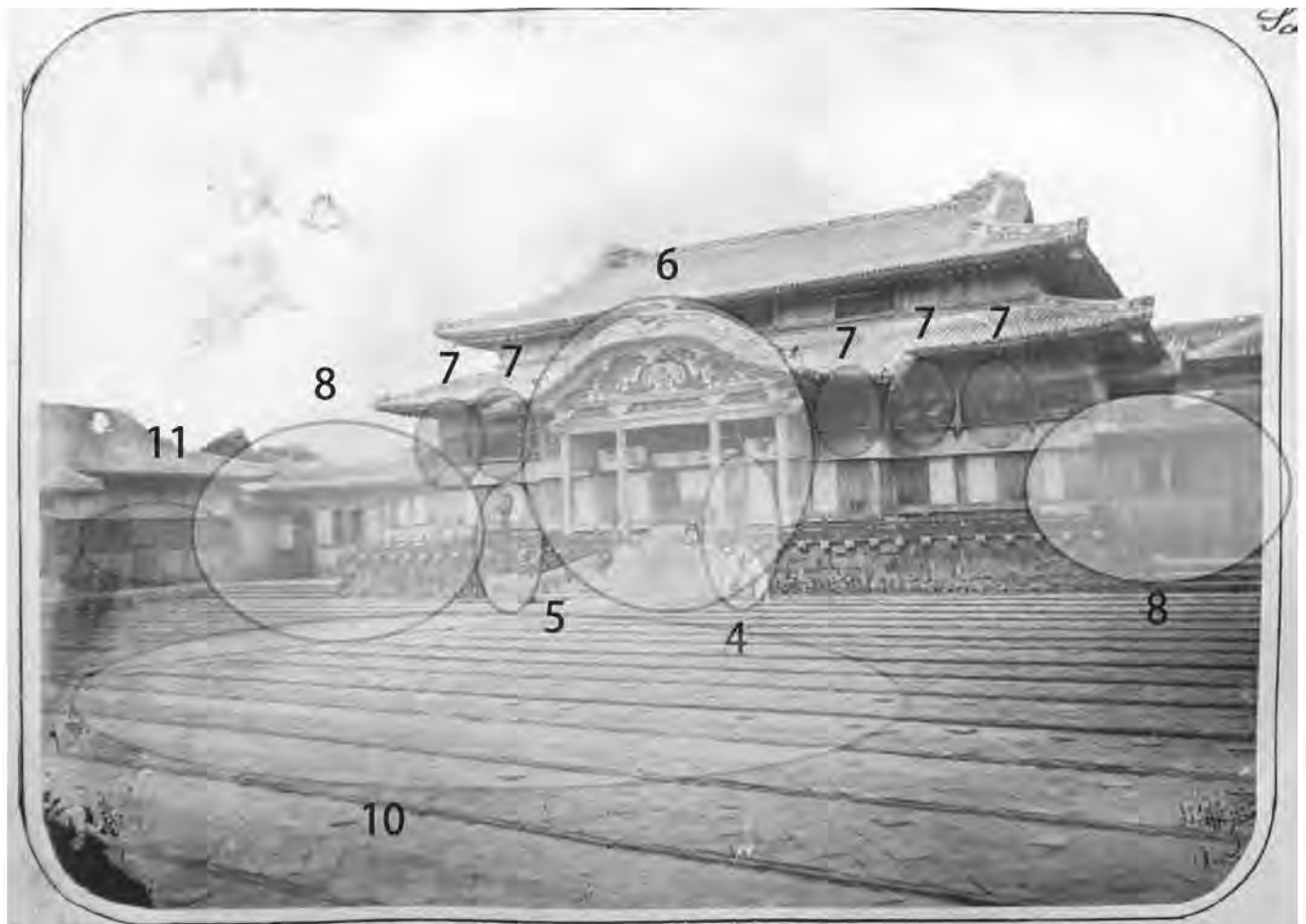
(7)正殿基壇高欄親柱の獅子像の向き[図9]

(8)御庭浮道が礎敷より高いこと[図10]

(9)御庭礎敷の詳細が判明[「沖縄県首里旧城図」と対応][図10]

(10)北殿窓の詳細[図11]

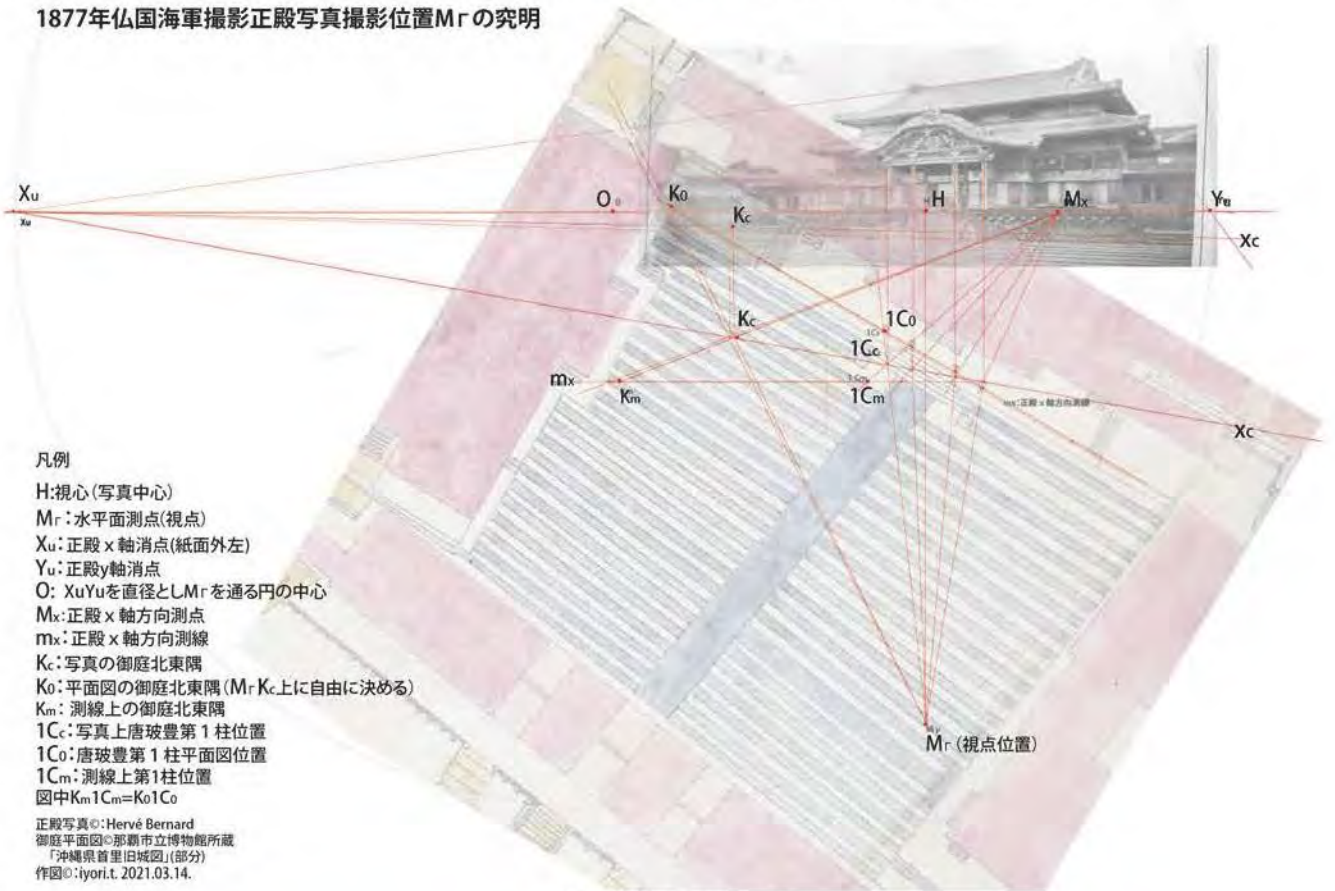
おわりに:



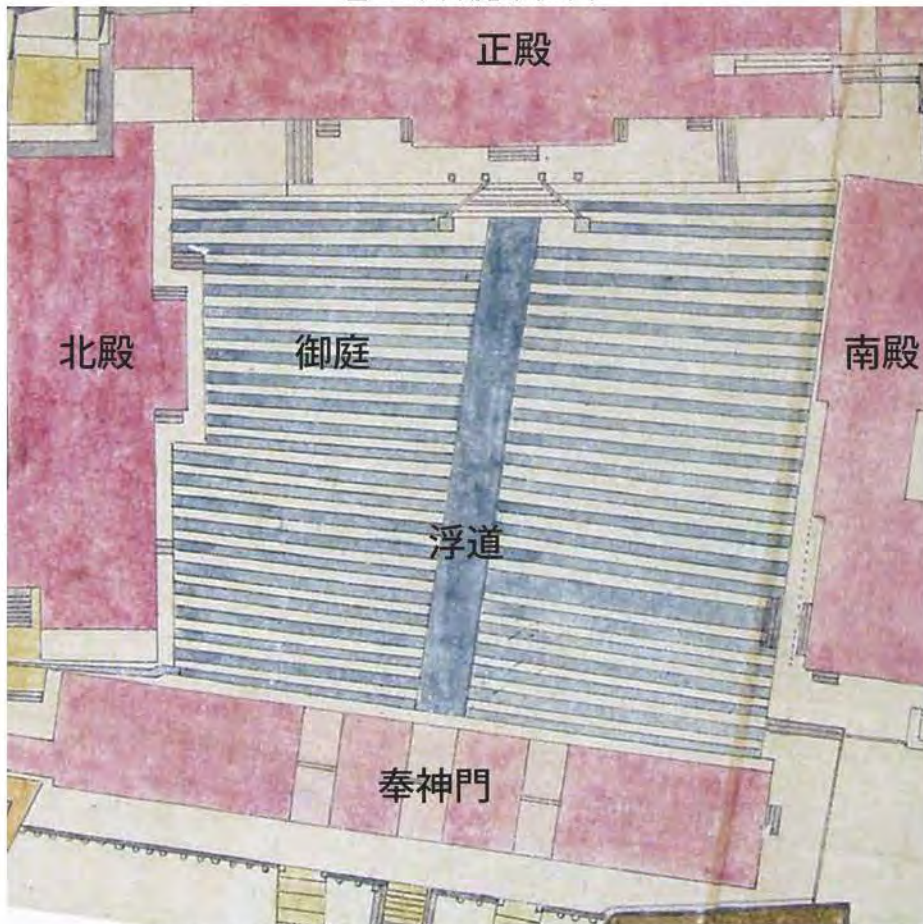
仏国海軍写真がもたらした新事実位置

図1 フランス海軍撮影首里城正殿写真撮影位置の探索 出典:伊従[2021]

1877年仏国海軍撮影正殿写真撮影位置Mrの究明

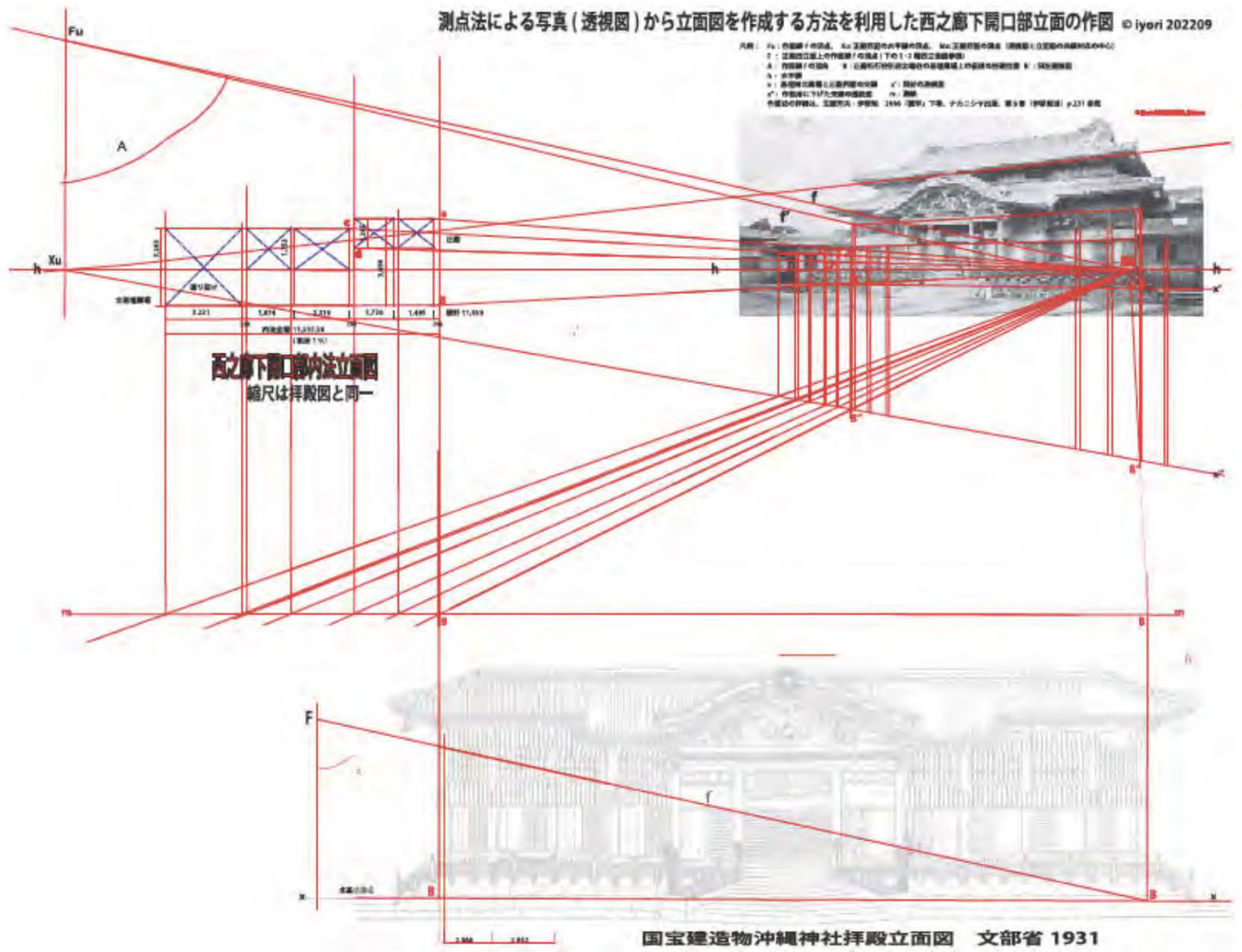


首里城御庭平面図



那覇市歴史博物館所蔵『沖縄県首里旧城図』(部分) [1889~92年測量]

図2 フランス海軍写真から西之廊下立面の再構成



出典:伊従[2022b]

フランス海軍写真西之廊下部分

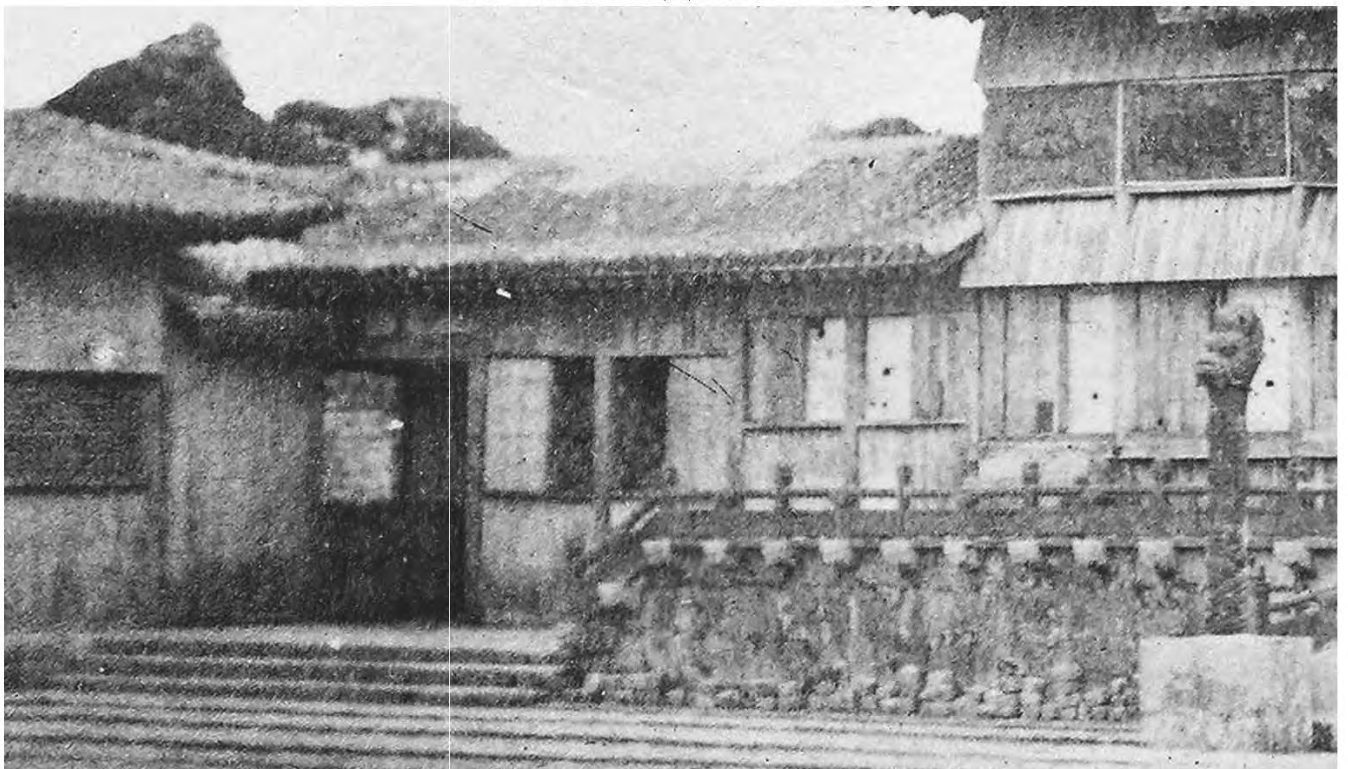
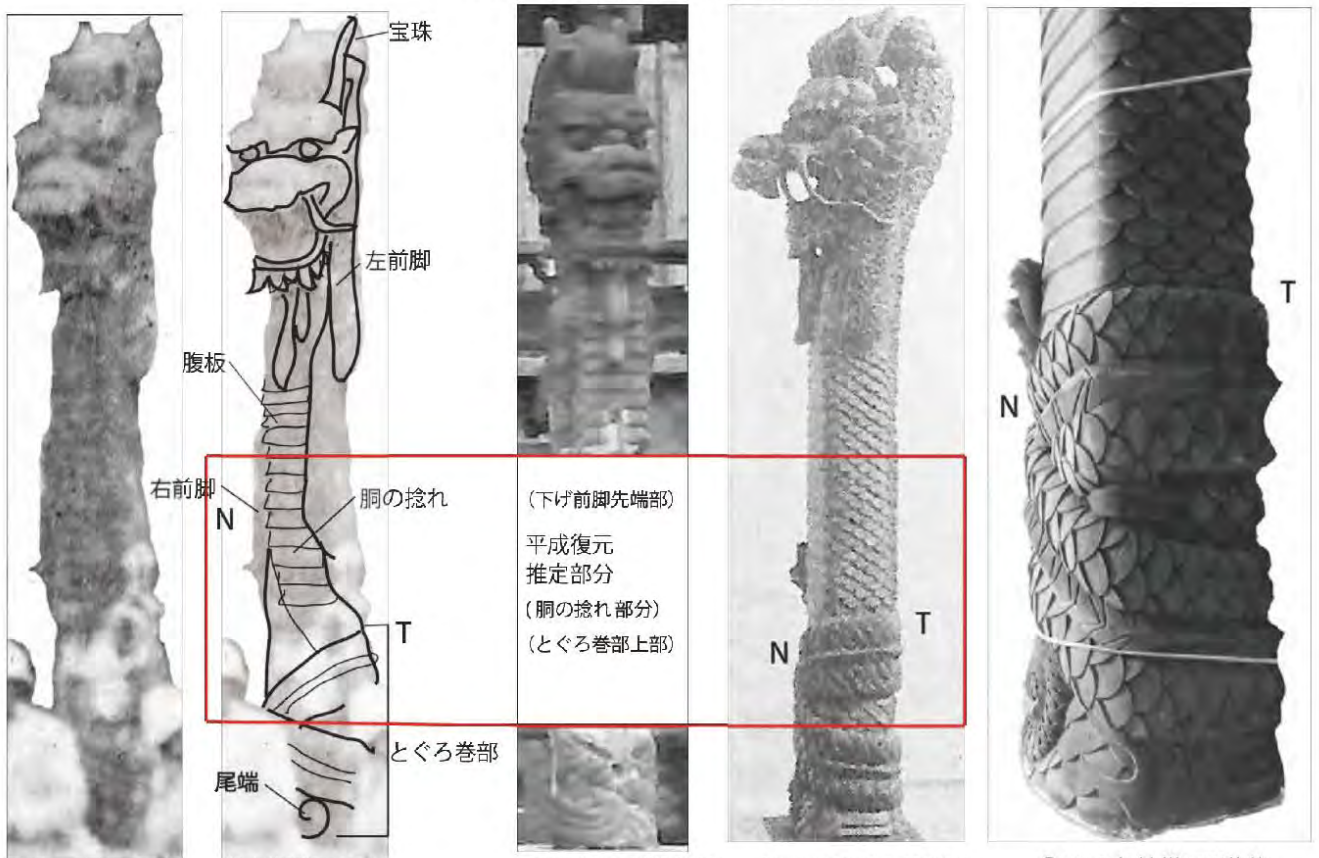


図3 大龍柱の向き



図4 阿形龍柱文様の詳細



©Hervé Bernard

①文様読み取り

②平成復元推測部分
[鎌倉撮影 1982 : 40]

③西村氏制作阿形龍柱
[正殿予備設計報告書 : 89]

④2019年被災阿形龍柱
とぐる巻部分 (正面と左面)
[筆者撮影]

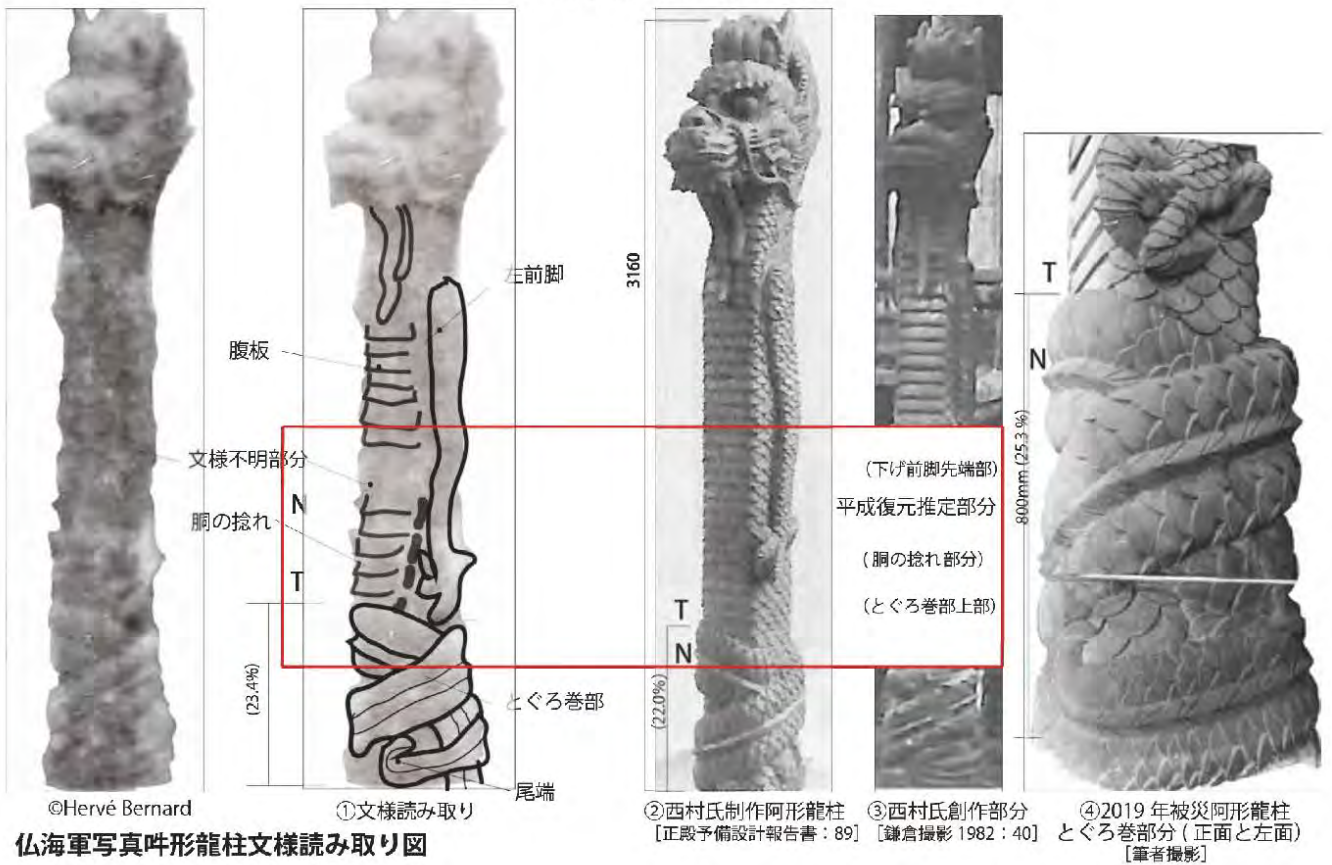
仏海軍写真阿形龍柱文様読み取り図

出典[伊従2023:41]

図3 大龍柱の向き



図5 吽形龍柱文様の詳細



仏海軍写真吽形龍柱文様読み取り図

図6 唐玻豊向拝装飾文様の新事実

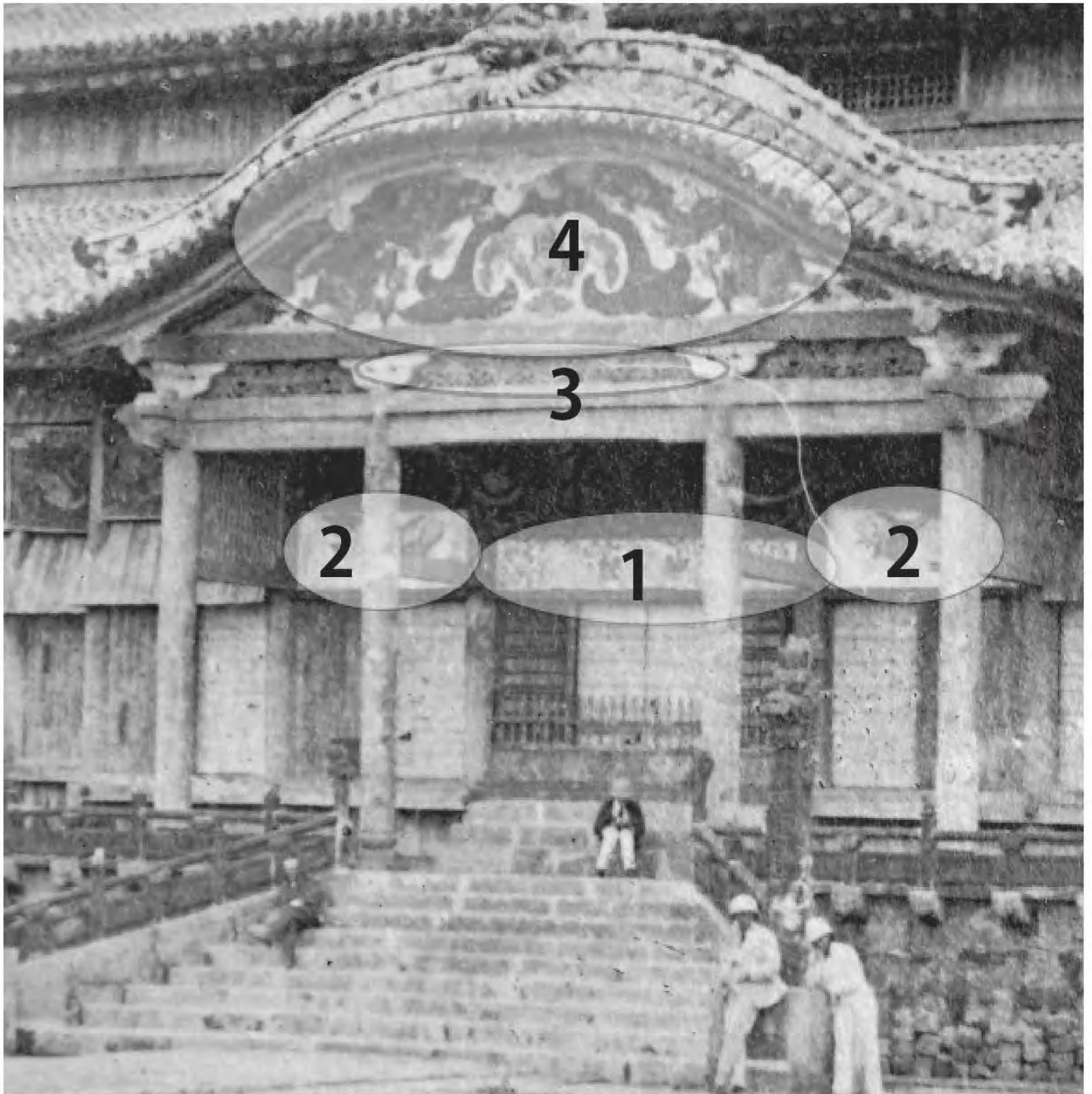


図6-1 国王出御座下羽目板牡丹獅子唐草文様

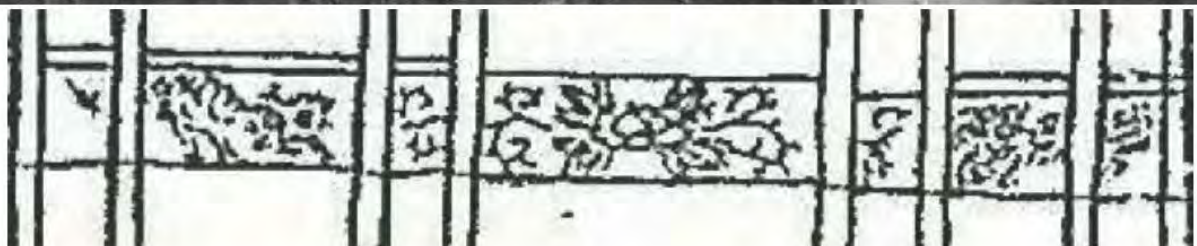
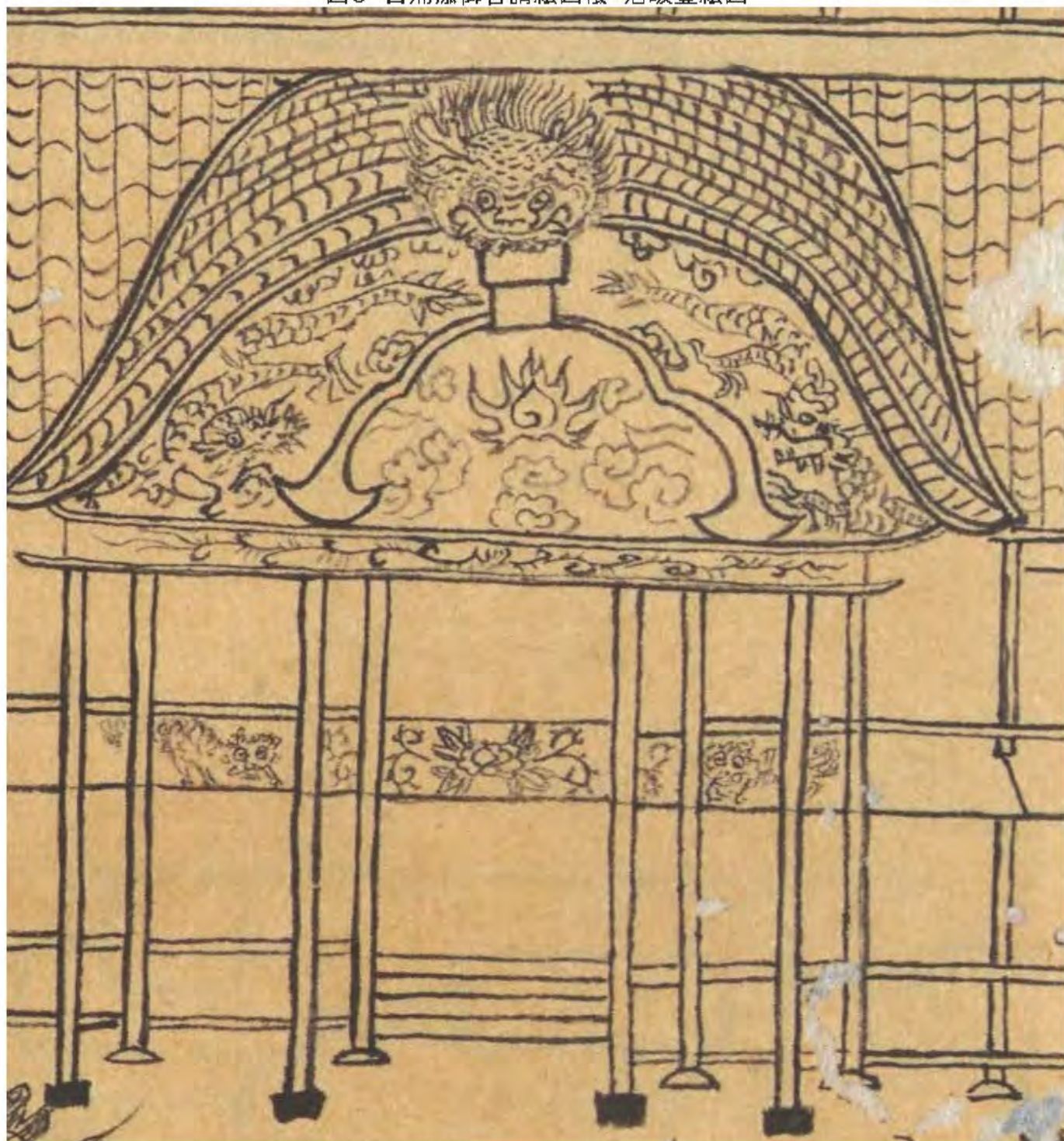


图6 百浦添御普請絵図帳 唐玻豊絵図



那覇市歴史博物館所蔵『百浦添御普請絵図帳』

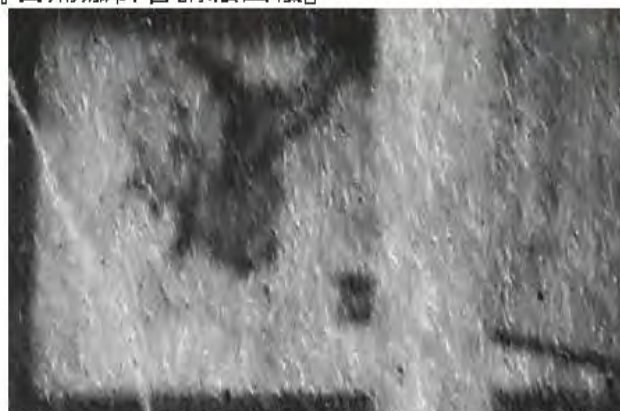
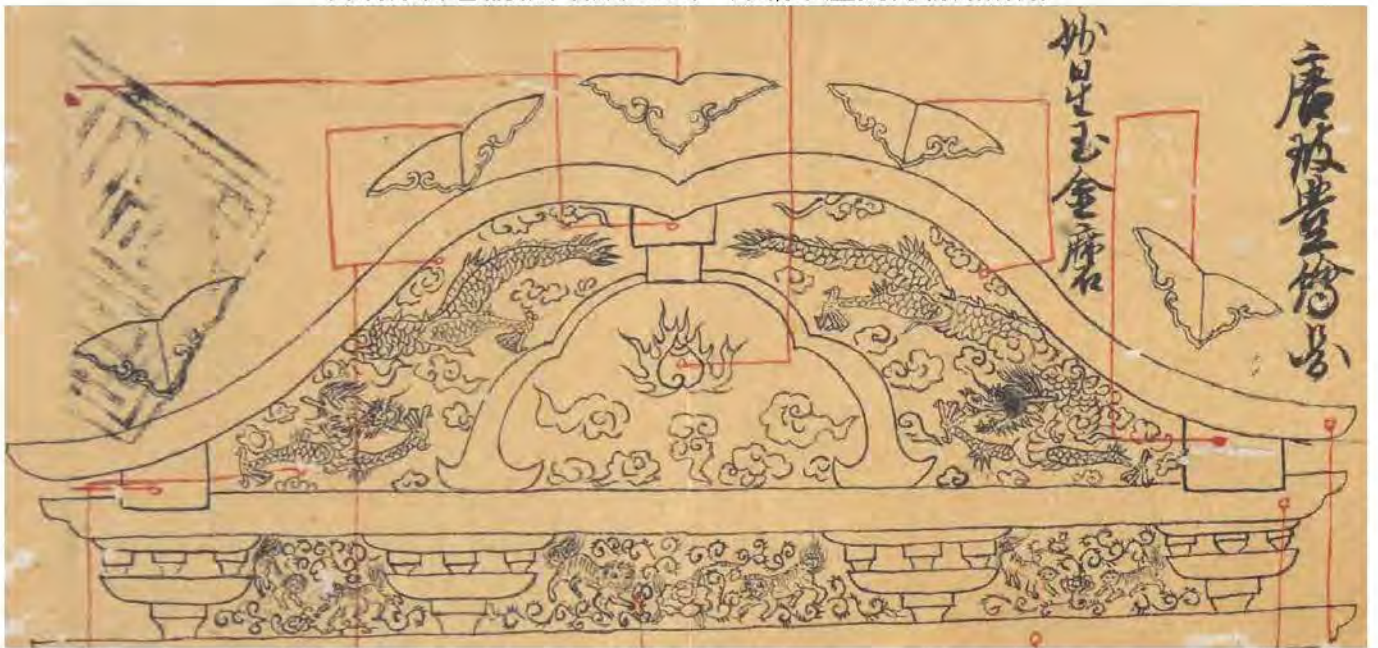


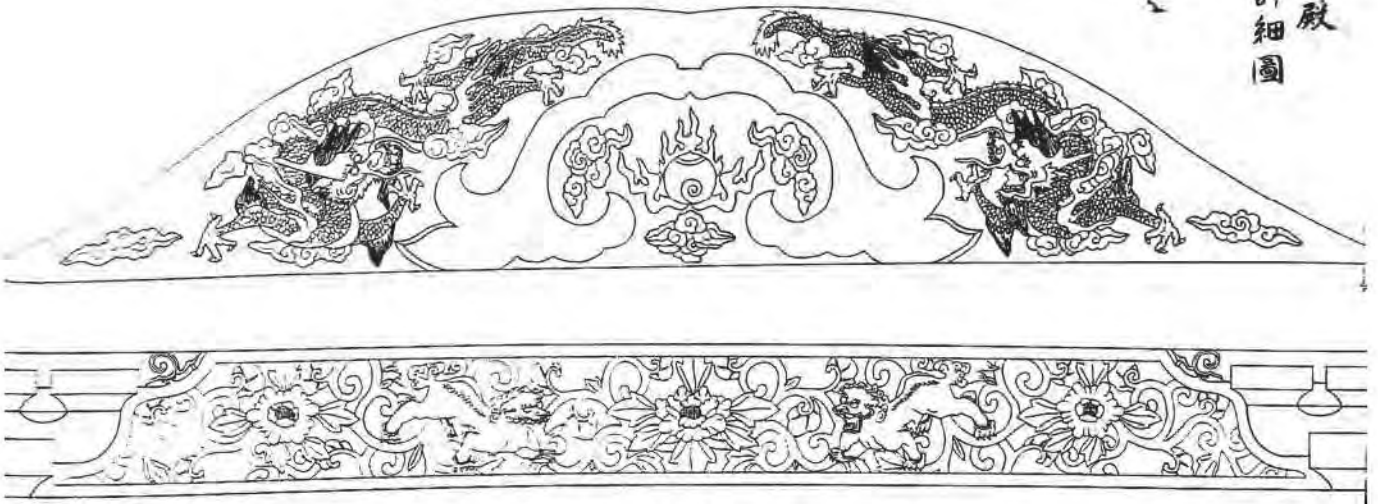
図6-3・4 唐玻豊妻面文様



百浦添御普請絵図帳(1846) 那覇市歴史博物館所蔵



昭和修理時唐玻豊妻面・透欄間図面



文化庁所蔵

図7 二階格子窓に架かる画簾

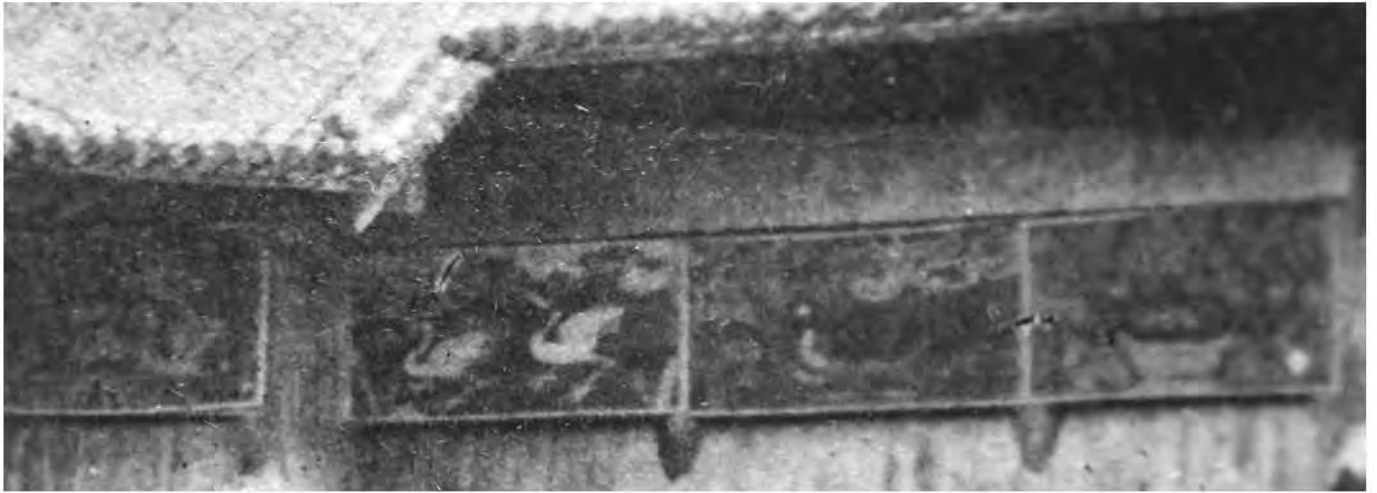


図8 南北廊下開口部二種類



図9 正殿基壇欄干獅子の向き

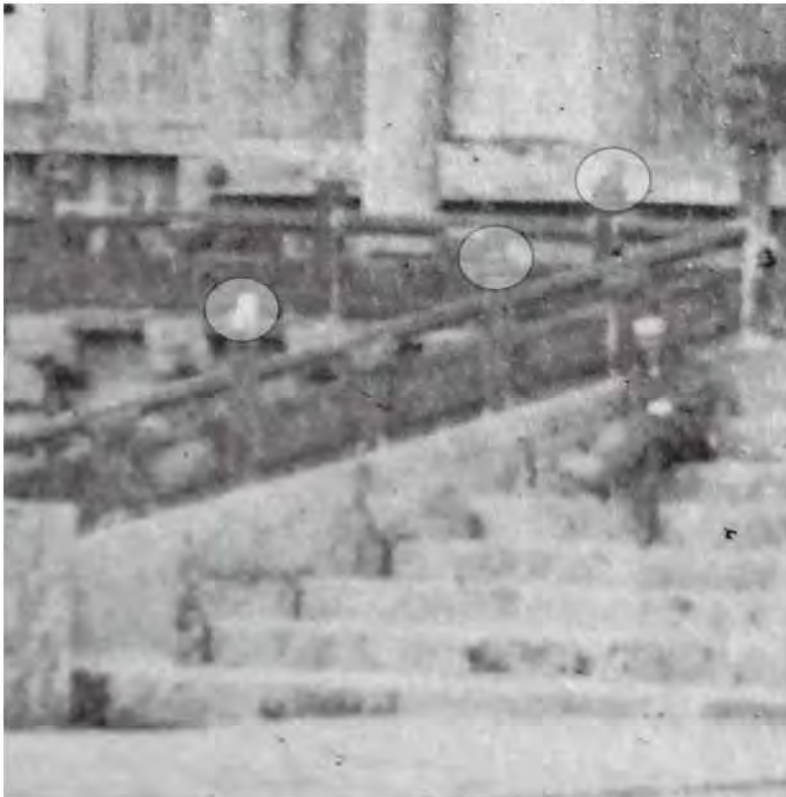


図9 1838年冊封儀設営図(部分)欄干の獅子像 鎌倉[1982:写真41]伊従[2023:図3-3]

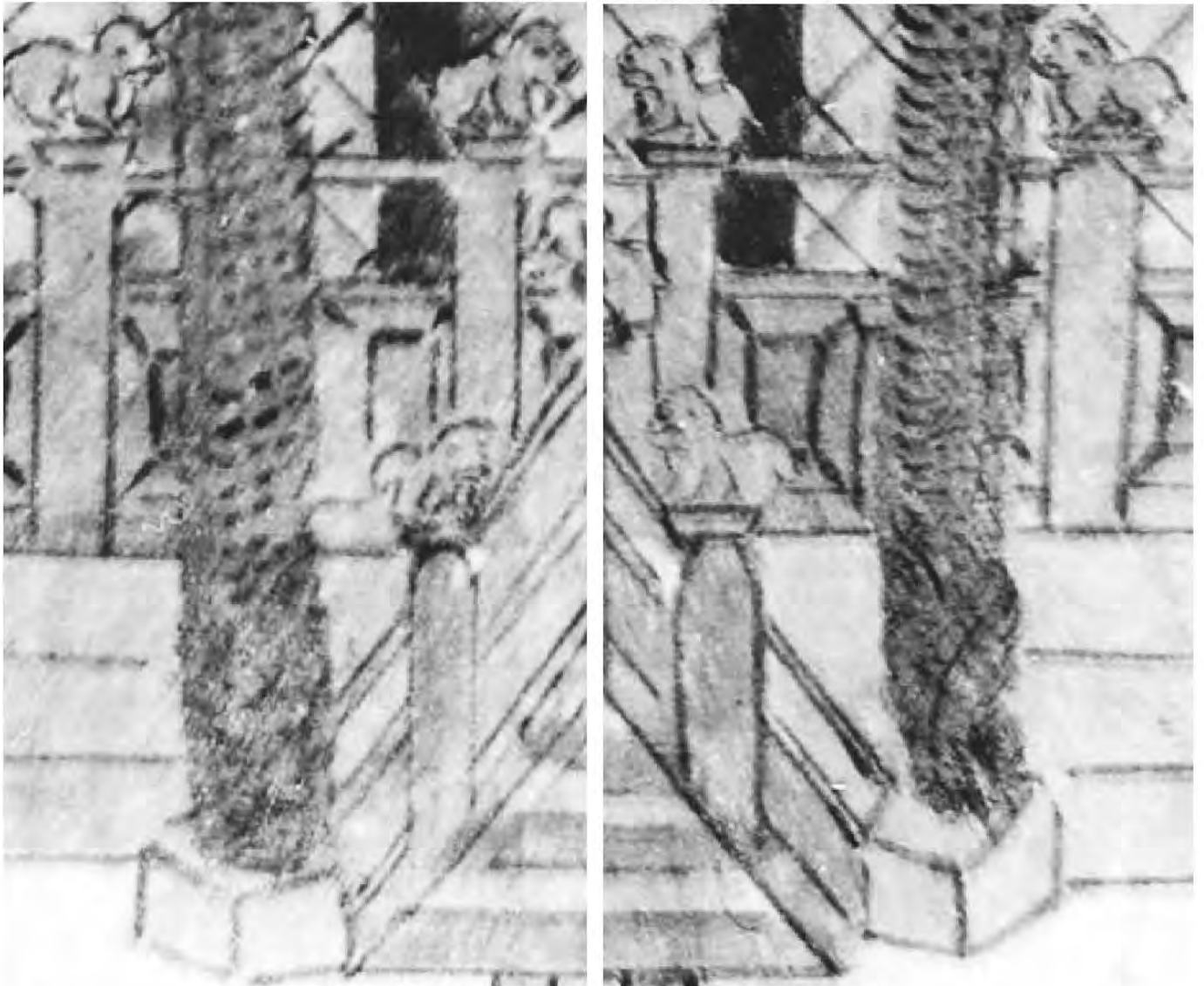
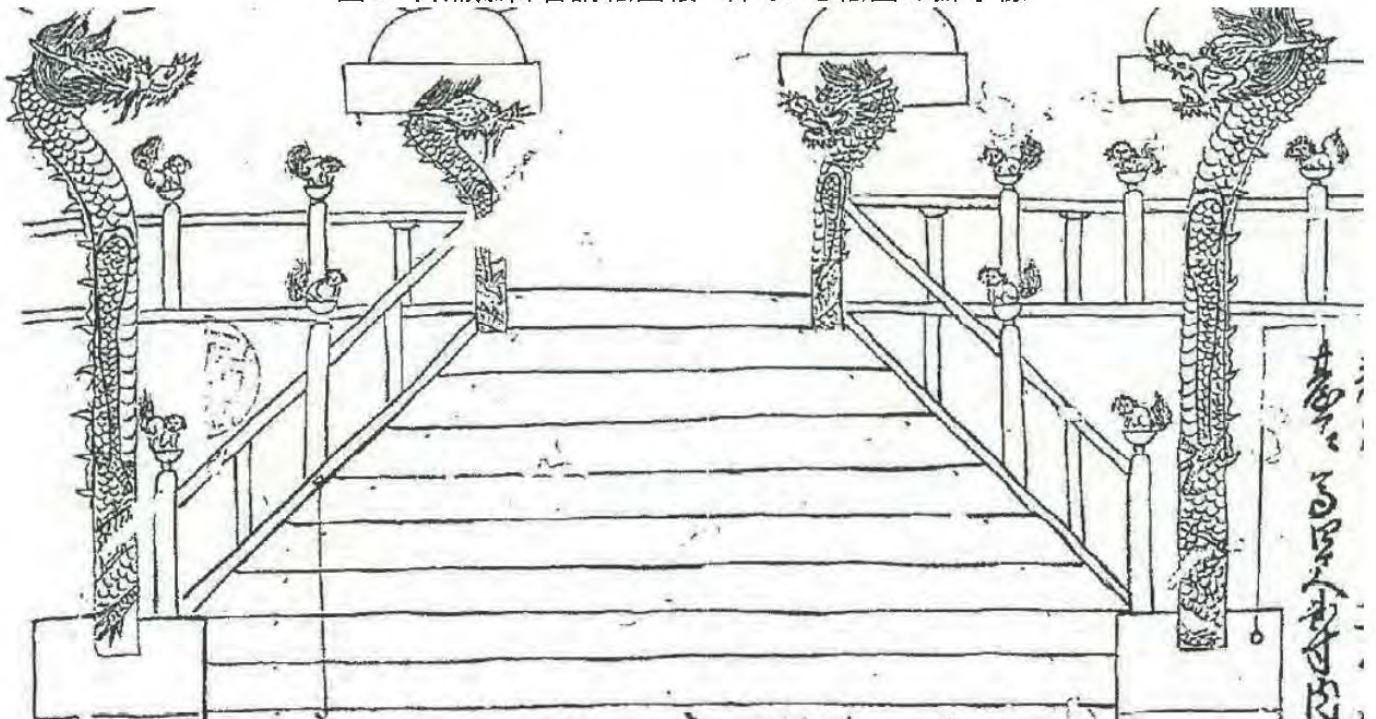


図9 百浦添御普請絵図帳 石ていし絵図の獅子像

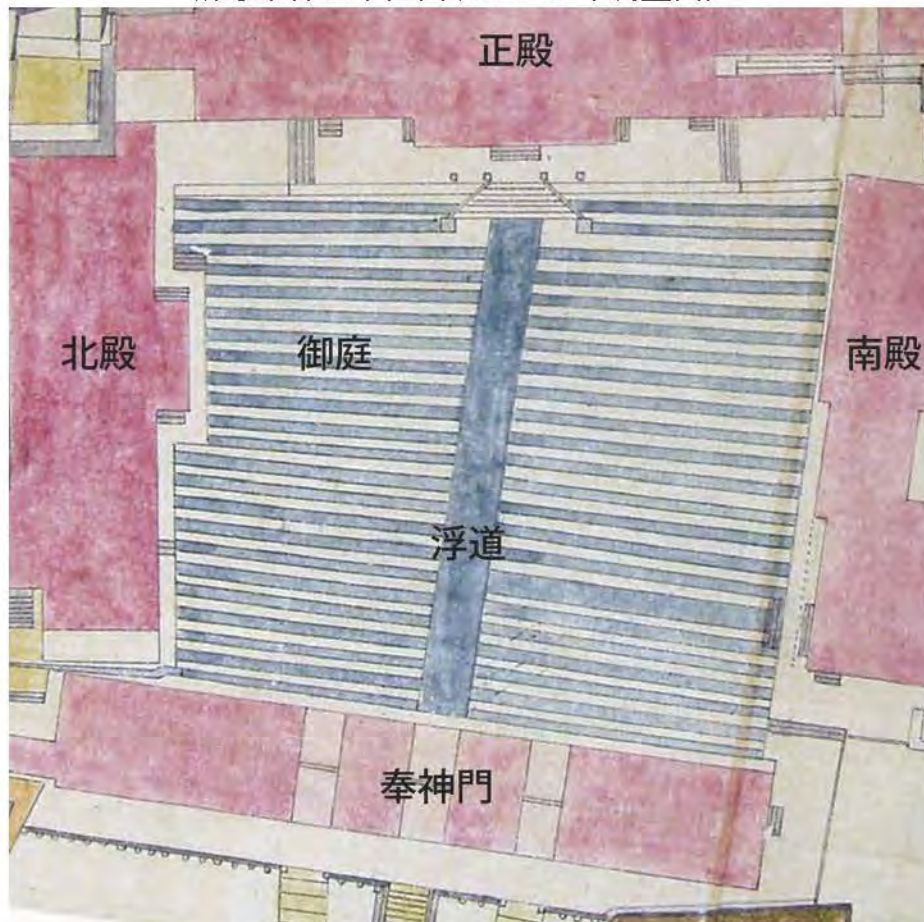


那覇市歴史博物館所蔵

図10 御庭磚敷の詳細



所与条件の平面図(1889-92年測量図)



那覇市歴史博物館所蔵『沖縄県首里旧城図』(部分)

■ 図1の作図法を用いて、図10の御庭磚敷写真(透視図)を平面図に変換することができる。

図11 北殿開口部詳細



■おわりに

以上の11箇所の新事実の確認によって、1768年以降の正殿重修史料・絵図群の相対的信頼度や異同点の評価を可能にした。他方、仏国海軍写真が示す1877年時点の事実だけに基づいて、18世紀前半以降の正殿と御庭廻りの景観の変遷を論ずる限界も示した。王府末期の正殿の状態を証言する一資料として、正殿の姿を可視的に伝える編年資料群に組み込まれて取り扱われるべきであると言えるだろう。

最後に付言すれば、本写真には、仏国海軍巡洋艦リウニエ艦長の航海日誌 [Bernard 翻刻 2011] と写真を撮影した下士官ルヴェルテガの紀行文 [Revertégat 1882] が存在することである (翻訳は [伊従 2022a] [熊谷謙介 訳注 2021] 参照)。これらのテキストに拠れば、この時期の首里城や円覚寺では建物や内部調度が風化し始めていることを証言している。二人の証言者は、歓会門や瑞泉門両脇の獅子像には触れても、正殿前に立つ、相当傷んで修復の跡が痛々しい龍柱には言及していない。

琉球に南下する航海の前に滞在した横浜と東京で、明治政府高官から琉球への置県処分が翌年執行される [実際には2年後] と聞いていたリウニエ艦長は、首里城の命運を、自らが参画した安南コーチシナ保護領化に重ねて見ていたと推測される [伊従 (解題) 2022a: 66-68]。

□フランス海軍写真関連参考文献

- Henri Rieunier 1877. "Récit historique de la visite, en Mai 1877, de Henri Rieunier, Capitaine du croiseur de 2e classe Le Laocheterie dans la grande île du royaume Tropical des Ryukyu (Okinawa)" 「アンリ・リウニエ、准級巡洋艦ラクロシェトリー号艦長の熱帯の王国琉球訪問記 1877年5月」 [リウニエ艦長航海日誌] Hervé Bernard 翻刻テキスト、Hervé Bernard, 2011, «*Ambassadeurs au pays du soleil levant dans l'ancien empire du japon*». Édition, auteur, Biarritz, 310pp. 『日の昇る国 旧日本帝国に派遣された特任大使』(私家本) 所収
- 中山王府 1846『百浦添御普請絵図帳』那覇市歴史博物館所蔵「尚家文書500」
- 中山王府 1877『光緒三年丁丑 御書院日記』4月3日(太陽暦5月15日)仏人七人来城、4月4日(同16日)仏人六人来城記録。

Jules-Joseph-Gabriel Revertégat, 1882.« *Une visite aux îles Lou-Tchou, 1877* », *Le Tour du Monde*, XLIV, 2, 1882 : 250-256, (ルヴェルテガ・J.「1877年の琉球列島訪問記」);再録 Patrick Beillevaire Editor, "Ryukyu Studies since 1854" Western Encounter Part 2, Volume 3. Edition Synapse, Ryukyu Library Collection 2.

文部省国宝建造物沖縄神社拝殿修理事務所 1931-33『国宝建造物沖縄神社拝殿図』文化庁所蔵、復刻：『首里城関係資料集』1987年所収

森田孟進1991-92「Le Tour du Monde (世界一周旅行)シリーズとM.-J. Revertégat(ルヴェルトガ): "Une Visite aux Iles Lou-Tchou" (琉球諸島紀行)」(1)~(5)、琉球大学付属図書館報『びぶりお』Vol.24 No.1..(1991年)~Vol.25 No.2.(1992年)

沖縄総合事務局編 1987『首里城関係資料集』

Patrick Beillevaire, 2013. "Présences françaises à Okinawa : de Forcade (1844-1846) à Haguénauer (1930)», *"Ebisu, Etudes Japonaise"*, 49 printemps-été 2013

ベイヴェール・P.「[近世・近代]沖縄に於けるフランス人の活動」東京日仏学館『えびす 日本研究』49号。

後田多敦 2020「ルヴェルトガの首里城正殿写真」11.14.琉球民族独立総合研究学会主催「首里城再建を問うオープンシンポジウム」公表文書

熊谷謙介訳注2021「ジュール・ルヴェルトガ< 1877年の琉球諸島紀行 >」『非文字資料研究』23、神奈川大学日本常民文化研究所発行

Hervé Bernard (寄贈),2021.07."Temple dans la cour du Palais de l'Osama" (「王様の王宮中庭の神殿」) [フランス海軍撮影首里城正殿写真 精細画像データ]、寄贈先: 沖縄県立図書館・沖縄県公文書館[本報告表紙写真]

Hohenberg, Fritz. 1966 *Konstruktive Geometrie in der Technik*, Dritte ergänzte Auflage. Springer, Wien, New York. 邦訳: 増田祥三訳『技術における構成幾何学』上下巻、日本評論社、1963年

伊從勉 1994「透視図からの計量的性質の再構成」、玉腰芳夫・伊從勉共著 2000『図学』下巻、ナカニシヤ出版所収第9章228-233頁[上記Hohenberg著作の方法の応用を解説]

伊從勉 2021「1877年5月16日(陰暦4月3日)のフランス海軍巡洋艦 Le Lachocheterie号乗組員 Revertégat少尉による首里城再度訪問時撮影の正殿写真の撮影位置について」21年4月20日首里城正殿彩色・彫刻検討会配布資料、首里城再建技術検討委員会・沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所[本報告図1の原図]

伊從勉(翻訳・解題)2022a「アンリ・リウニエ、准級巡洋艦ラクロシュトリー号艦長の熱帯の王国琉球訪問記 1877年5月: 艦長航海日誌から」『首里城研究』24

伊從勉 2022b「測点法による写真から立面図を作成する方法を利用した西之廊下開口部立面の作図」[フランス海軍撮影正殿写真を利用した西之廊下立面図の作図]22年9月28日開催首里城再建技術検討委員会提出伊從意見書。[本報告図2]

伊從勉 2023「首里城正殿龍柱: 不可解な起源と正殿双龍宝珠文様形成過程からみた龍柱の姿勢論的考察」『首里城研究』25

鎌倉芳太郎 1982『沖縄文化の遺宝』岩波書店。写真原版は沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵。
西村貞雄 1988「首里城正殿大龍柱(縮尺1/5)復元経過について」『首里城正殿予備設計報告書』沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所編

□沖縄での仏国海軍写真記事

沖縄タイムス 2020「最古の首里城写真確認」2020.11.15.

琉球新報 2020「首里城正殿最古写真か」2020.11.15.

沖縄タイムス 2021「首里城最古の写真入手」21年7月31日

琉球新報 2021「首里城最古の写真、鮮やか」21年7月31日

□図版・写真引用出典

図1 伊從[2021]および『沖縄県首里旧城図』部分(1889~92年測量)那覇市歴史博物館所蔵

図2 伊從[2022b]および文部省[1931-33]「国宝建造物沖縄神社拝殿立面図」、復刻: 沖縄総合事務局[1987]所収

図4 伊從[2023:41]、西村[1988]、鎌倉[1982:写真44]

図5 伊從[2023:40]、西村[1988]、鎌倉[1982:写真44]

図6 中山王府 1846『百浦添御普請絵図帳』那覇市歴史博物館所蔵「尚家文書500」「正殿姿図」

図6-3・4 同上「唐坡豊絵図」。文部省[1931]「向拝詳細図」「向拝欄間詳細図」。

図9 鎌倉芳太郎[1982:写真41]「城元之図」(部分)[1838年冊封儀設営図写真]および中山王府[1846][正殿石階段絵図]